

<b>1. 基本情報</b>						
事務事業番号	02437	事務事業名	図書館運営事業	担当部	教育部	
政策名	004	はぐくみ(社会を生き抜く力と生涯を通じて学びあう力を育むまちづくり)			担当課	国分図書館
施策名	002	多様な学びを支援する社会教育の充実			グループ	管理図書グループ
基本事業名	003	自ら学び、高め合う体制づくりと学習環境の充実			内線番号	3053
予算科目目	会計	一般会計		事業期間	単年度のみ	
	款	10	教育費		単年度繰返(開始年度 昭和33年度 ~ )	
	項	06	社会教育費		期間限定複数年度( ~ )	
目	08	図書館費		根拠法令・条例等	図書館法、霧島市立図書館の設置及び管理に関する条例、同条例施行	
評価区分	標準評価	評価対象	2次評価	関連計画	霧島市教育振興基本計画、霧島市子ども読書活動推進計画	

2. 事務事業の概要・目的・指標<Do>

(1) 事務事業の概要 (具体的なやり方、手順、詳細を記述)

・市内に国分・隼人図書館、溝辺・横川・牧園・霧島・福山図書室の2図書館、5図書室が設置されている。公共図書館としての役割を果たすために多様な図書資料の整備に努め、幅広い年齢層の方々のニーズに応じた図書の提供を行う。  
 また、未所蔵本に対する購入希望状況、予約の状況等や図書の出版傾向(ベストセラーの把握、新聞等の書籍の紹介)にも目を向けながら、計画的な購入・相互貸借等の活用で利用者の要望に対応し、図書資料の収集、整理、提供等を行う。さらに、図書館施設の維持管理を行う。

- 貸出冊数... 5冊以内
- 貸出期間... 15日以内
- 貸出対象者... 市内居住者、市内への通勤・通学者

活動指標(事務事業の活動量)	単位	平成30年度(実績)	平成31年度(見込)	令和2年度(見込)	令和3年度(見込)
ア 入館者数	人	208,414	244,500	202,045	210,000
イ 蔵書冊数	冊	429,970	436,000	418,487	426,000
ウ					

(2) 事務事業の目的

対象(誰、何を対象にしているのか)	対象指標(左記対象の大きさを表す指標)	単位	平成30年度(実績)	平成31年度(見込)	令和2年度(見込)	令和3年度(見込)
ア 市民	人口	人	124,785	126,230	124,367	123,908
イ						
ウ						

  

意図(対象をどうしたいのか)	成果指標(左記意図の達成度を表す指標)	単位	平成30年度(実績)	平成31年度(目標)	令和2年度(目標)	令和3年度(目標)
ア 欲しい情報を得られる	貸出者数(移動図書館を除く)	人	97,519	103,500	98,833	104,000
イ 興味がある本を読める	貸出冊数(移動図書館を除く)	冊	332,947	353,500	343,946	356,000
ウ						

(3) 総合計画との関係

**基本事業の目的、取組方針(総合計画より)**

多様化・高度化するニーズに対応し、関係機関と連携した学習機会や学習内容の充実に努めるとともに、市民が、必要な情報を容易に入手できるよう、広報誌や図書館システムなどを活用した情報提供を行います。  
 また、社会教育施設の改修やメディアセンター等の機器の更新を通じ、市民が利用しやすい学習環境の整備に努めるとともに、社会教育における学びを通して、地域を知り、課題に気づくことで、その解決に向けた活動に繋がる場や機会の充実に努めます。

3. 前年度の評価表に記載した課題

平成31年度の改善改革の内容(取り組むべき課題)

利用者の図書に対するニーズ(リクエスト)を図書の購入へと反映させたり、他の公共図書館との相互貸借を進めることによって、利用者の学習意欲の向上を図る。  
 またテーマに沿った図書コーナーを配置するなど、利用者(子どもを含む)が興味を持つような活用環境を創出するとともに、ホームページや広報誌、図書館だより等を活用して図書館環境の周知を図る。  
 来館者が安心、安全、快適に利用することができるよう、隼人図書館の入口に自動ドアを設置する。

4. 事業費の推移

事業費	単位	30年度	31年度		2年度	3年度
		決算	当初予算	決算	当初予算	計画
国庫支出金	千円	0	0	0	0	0
県支出金	千円	0	0	0	0	0
地方債	千円	0	0	0	0	0
その他	千円	45	73	63	90	63
一般財源	千円	57,034	59,802	57,428	62,106	63,455
事業費	千円	57,079	59,875	57,491	62,196	63,518

5. 平成31年度の実績及び成果

(1) 平成31年度の実績(取組) <取組内容を数値等により具体的に記載>	(2) 平成31年度の成果 <左記の実績(取組)による成果を記載>
<ul style="list-style-type: none"> <li>各図書館(室)において、蔵書構成を考慮しながら図書資料等の収集、整理、提供等を行った。</li> <li>県内外の公共図書館、大学図書館の蔵書情報を提供し、利用者の希望に応じて相互貸借を行った。</li> <li>学校図書館、読書ボランティアグループとの連携を図り、授業に関連する図書資料、おはなし会などで利用する大型絵本等を購入した。</li> <li>図書館をより身近に感じてもらえるように、図書館の行事や新刊等の情報を、図書館だよりや広報誌等を通じて発信した。</li> <li>隼人図書館に自動ドアを設置した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各図書館(室)が割り当てた図書購入費の中で、蔵書構成を考慮・工夫しながら、新たな図書資料を収集・提供することができた。</li> <li>相互貸借を利用し、霧島市が所蔵していない本を希望者に提供することができた。</li> <li>学校図書館、読書ボランティアグループの要望で購入した図書資料が、それぞれの読書活動に役立ち、活用された。</li> <li>図書館だよりを窓口や学校等に配布し、多くの利用者に活用してもらうことができた。</li> <li>隼人図書館入口の自動ドア化等により、利用者が来館しやすい環境を提供した。</li> </ul>

事務事業 番号	02437	事務 事業名	図書館運営事業	担当部	教育部
				担当課	国分図書館

**6. 振り返り <SEE (check) >**

A 目的 妥当 性	この事業の目的は、基本事業の目的、取組方針に結びついていますか？	・この事業をなぜ市が行わなければならないですか？ ・税金を投入して達成する目的ですか？
	結びついている	市が実施すべき事業又は実施しなければならない事業である
	間接的に結びついている	市が実施することは妥当である
	結びついていない	見直す必要がある
B 有効 性	成果が向上する余地（可能性）はありませんか？	廃止・休止の影響はありませんか？
	向上する余地はかなりある	影響がある
	向上する余地はある程度ある	影響はある程度ある
	向上する余地はほとんどない	影響はほとんどない
C 効率 性	・事務事業の手段（やり方）を工夫することで、事業費を削減できませんか？ ・補助金など、交付先に働きかけて、市の負担を削減できませんか？	・事務事業の手段（やり方）を工夫することで、人件費（延べ業務時間）を削減できませんか？ ・職員以外の対応や委託により人件費を削減できませんか？
	削減できない	削減できない
	削減する余地はある程度ある	削減する余地はある程度ある
	削減できる	削減できる
D 公平 性	事務事業の内容が一部の受益者に偏っていませんか？ また、受益者負担の公平性が確保されていますか？	
	公平・公正である	
	見直す必要がある	

<b>総合評価判定基準</b>		<b>総合評価</b>	<b>理由</b>
A:継続して取り組むことが適当（やり方改善含む。） B:事業規模・内容・実施主体の見直しの検討 C:事業の統合、休・廃止の検討		<b>A</b>	多様なジャンルの本を揃え、市民が必要とする情報を提供し、身近で本に触れ合える場として、市立図書館の重要性は今後も増していく。魅力的な広報活動を行うことで利用者、貸出冊数の増加など成果の向上は見込める。図書館運営に関わる人員は必要最小限であるため、これ以上の削減はできない。図書館は全ての市民が利用可能なため、公平・公正である。

**7. 1次評価結果 <PLAN (Action - Plan) > (組織決定)**

【参考】前年度の改革改善の方向性 << 継続・やり方改善 >>						
(1) 今後の事務事業の改革改善の方向性	の 事 業 向 成 果 性 ( — )	拡 充			レ	
		維 持				
		縮 小				
		休廃止（統合含む）				
			皆 減	縮 小	維 持	拡 大
コスト投入（予算）の方向性						
(2) 令和2年度の改革改善の内容 (取り組むべき課題)	・リクエスト以外に相互貸借を利用して貸出希望に無償で対応しているが、要望が増加する中、使送便（*1）により無料で利用できる県立図書館以外からの相互貸借については運用方法を検討する。 ・インターネット予約を推進する体制を整えるために運営時間の見直しも視野に入れ、利用者が複数の選択肢から各々のニーズに合った本の借り方・受け取り方・返し方ができる機器やシステムの導入を検討する。 *1 県の機関と市町村との間で文書等の集配送を行う制度（使送便）を県が独自に運用しており、同制度を利用して無料で県立図書館との相互貸借を実施している。					
(3) 令和3年度の方向性 (具体的な取組)	・検討に基づき、図書館運営業務の効率化につながる機器等の導入を目指し、インターネット予約を推進する体制を整える。					

**8. 2次評価結果 (担当部長評価)**

						評価者	職・氏名	教育部長	出口 竜也
(1) 今後の事務事業の改革改善の方向性	の 事 業 向 成 果 性 ( — )	拡 充							レ
		維 持							
		縮 小							
		休廃止（統合含む）							
			皆 減	縮 小	維 持	拡 大			
コスト投入（予算）の方向性									
(2) 総評	相互貸借については、他自治体の取扱い状況を参考にしながら、運用方法を検討する必要がある。事務の効率化を図るためにも、新しい生活様式（新型コロナウイルス感染症対策）に合わせ、利用者のニーズに合った「借り方・受け取り方・返し方」の選択が可能となる機器やシステム導入の検討も、これからの図書館には必要となる。								



<b>1. 基本情報</b>						
事務事業番号	02438	事務事業名	移動図書館運営事業	担当部	教育部	
政策名	004	はぐくみ(社会を生き抜く力と生涯を通じて学びあう力を育むまちづくり)			担当課	国分図書館
施策名	002	多様な学びを支援する社会教育の充実			グループ	管理図書グループ
基本事業名	003	自ら学び、高め合う体制づくりと学習環境の充実			内線番号	3053
予算科目目	会計	一般会計		事業期間	単年度のみ	
	款	10	教育費		単年度繰返(開始年度 昭和43年度 ~ )	
	項	06	社会教育費		期間限定複数年度( ~ )	
目	08	図書館費		根拠法令・条例等	図書館法、霧島市立図書館の設置及び管理に関する条例	
評価区分	標準評価	評価対象	1次評価	関連計画	霧島市教育振興基本計画、霧島市子ども読書活動推進計画	

**2. 事務事業の概要・目的・指標<Do>**

**(1) 事務事業の概要** (具体的なやり方、手順、詳細を記述)  
 図書館から遠隔地にある地域、住宅、団地、小学校等に、移動図書館車での本の巡回サービスを実施し、市民の教養と文化の向上を図るための学習環境づくりを支援する。  
 ・国分図書館移動図書館車「しるやま号、しるやま号小型」、隼人図書館移動図書館車「すずかけ号」  
 ・巡回箇所90箇所 ・配本所 27箇所 ・貸出冊数 10冊以内 ・貸出期間 1ヶ月以内(次回巡回日まで)  
 一般巡回場所(各地域・住宅・団地等)・・・年間の移動図書館日程表を作成し、月に1回決まった時間に出向き利用者に貸出を行う。リクエスト(読みたい本)等の要望を聞き、次の巡回日に持参する。  
 小学校・・・年間の日程表により月に1回巡回する。個人のリクエスト(読みたい本)の要望にも応え、事前に先生方と連携をとり、調べ学習用の本を準備し、貸出を行う等工夫を行っている。小規模校では、おはなし会も実施している。

活動指標(事務事業の活動量)	単位	平成30年度(実績)	平成31年度(見込)	令和2年度(実績)	令和3年度(見込)
ア 巡回箇所	箇所	88	89	90	91
イ					
ウ					

**(2) 事務事業の目的**

対象(誰、何を対象にしているのか)	対象指標(左記対象の大きさを表す指標)	単位	平成30年度(実績)	平成31年度(見込)	令和2年度(実績)	令和3年度(見込)
ア 市民	人口	人	124,785	126,230	124,367	124,181
イ						
ウ						

  

意図(対象をどうしたいのか)	成果指標(左記意図の達成度を表す指標)	単位	平成30年度(実績)	平成31年度(目標)	令和2年度(実績)	令和3年度(目標)
ア 欲しい情報を得られる	貸出者数(移動図書館分のみ)	人	7,713	10,400	8,110	9,000
イ 欲しい情報を得られる	貸出冊数(移動図書館分のみ)	冊	52,597	50,000	51,884	60,000
ウ						

**(3) 総合計画との関係**

**基本事業の目的、取組方針(総合計画より)**  
 多様化・高度化するニーズに対応し、関係機関と連携した学習機会や学習内容の充実に努めるとともに、市民が、必要な情報を容易に入手できるよう、広報誌や図書館システムなどを活用した情報提供を行います。  
 また、社会教育施設の改修やメディアセンター等の機器の更新を通じ、市民が利用しやすい学習環境の整備に努めるとともに、社会教育における学びを通して、地域を知り、課題に気づくことで、その解決に向けた活動に繋がる場や機会の充実に努めます。

3. 前年度の評価表に記載した課題		4. 事業費の推移					
平成31年度の改善改革の内容(取り組むべき課題)		単位	30年度決算	31年度当初予算	2年度当初予算	3年度計画	
・移動図書館とは、「図書館の利用に困難な地域を定期的に巡回し、サービスを提供する図書館である」という定義のもと巡回の場所・時間等を検討し、市民の身近なところで利用できるように改善し、工夫していく。 ・図書館から遠い地域の方に身近なステーションを知っていただくため、周知を図る。 ・学校と連携を密に取り、リクエストや調べ学習等に役に立つ資料を提供できるように、必要な資料の提供に取り組み、児童生徒の読書活動の支援を行なう。	財源内訳	千円	0	0	0	0	
	国庫支出金	千円	0	0	0	0	
	県支出金	千円	0	0	0	0	
	地方債	千円	0	0	0	0	
	その他	千円	0	0	0	0	
	一般財源	千円	4,080	3,961	4,242	4,700	4,555
事業費	千円	4,080	3,961	4,242	4,700	4,555	

**5. 平成31年度の実績及び成果**

(1) 平成31年度の実績(取組) <取組内容を数値等により具体的に記載>	(2) 平成31年度の成果 <左記の実績(取組)による成果を記載>
・全体の巡回箇所の見直しを行い、移動図書館の機能を活かし、利用者の利便性向上に努めた。巡回は、利用者のリクエスト(読みたい本)の要望に応えるなど工夫をして行った。小学校の巡回は、小規模校を中心に市内全体で実施し、読書推進につながった。 ・巡回箇所90箇所(国分しるやま号:56か所隼人すずかけ号:34か所) ・隼人において巡回箇所の見直しを行い、2か所の増とした。 ・移動図書館用の本の充実整備を進めた。 ・利用者の予約・リクエストを重視し、市民が求める資料を提供した。	・巡回箇所の見直しを行ったことにより、貸出人数の増加につながった。利用者からのリクエスト(読みたい本)の要望に応えるサービス等、知りたい情報・求めている本の提供を行い、利用者の利便性向上並びに本の充実に努め読書推進につながった。

事務事業 番号	02438	事務 事業名	移動図書館運営事業	担当部	教育部
				担当課	国分図書館

**6. 振り返り <SEE (check) >**

A 目的 妥当 性	この事業の目的は、基本事業の目的、取組方針に結びついていますか？	・この事業をなぜ市が行わなければならないですか？ ・税金を投入して達成する目的ですか？
	結びついている	市が実施すべき事業又は実施しなければならない事業である
	間接的に結びついている	市が実施することは妥当である
	結びついていない	見直す必要がある
B 有効 性	成果が向上する余地（可能性）はありませんか？	廃止・休止の影響はありませんか？
	向上する余地はかなりある	影響がある
	向上する余地はある程度ある	影響はある程度ある
	向上する余地はほとんどない	影響はほとんどない
C 効率 性	・事務事業の手段（やり方）を工夫することで、事業費を削減できませんか？ ・補助金など、交付先に働きかけて、市の負担を削減できませんか？	・事務事業の手段（やり方）を工夫することで、人件費（延べ業務時間）を削減できませんか？ ・職員以外の対応や委託により人件費を削減できませんか？
	削減できない	削減できない
	削減する余地はある程度ある	削減する余地はある程度ある
	削減できる	削減できる
D 公平 性	事務事業の内容が一部の受益者に偏っていませんか？ また、受益者負担の公平性が確保されていますか？	
	公平・公正である	
	見直す必要がある	

総合評価判定基準	総合評価	理由
A:継続して取り組むことが適当（やり方改善含む。） B:事業規模・内容・実施主体の見直しの検討 C:事業の統合、休・廃止の検討	<b>A</b>	図書館は、市民の教養と文化の向上を図るための学習支援を行う機関であり、移動図書館はその一部である。市民への生涯学習支援が「いつでもどこでも」得られる手段として、その機能を生かし、市が実施すべき事業である。今後も要望等を考慮しながら、巡回場所の見直しを進め、新たな巡回場所の周知・定着を図ることにより、市民の利便性を向上させる。

**7. 1次評価結果 <PLAN (Action - Plan) > (組織決定)**

		【参考】前年度の改革改善の方向性 継続・やり方改善 << >>			
(1) 今後の事務事業の改革改善の方向性	の 事 業 向 成 果 性 （ ）	拡 充			
		維 持			レ
		縮 小			
		休廃止（統合含む）			
			皆 減	縮 小	維 持
			コスト投入（予算）の方向性		
(2) 令和 2年度の改革改善の内容（取り組むべき課題）	・移動図書館の利便性を高めるために、巡回の場所や時間等を検討し、市民の身近な所で利用できるように改善し、工夫していく。そのためには、課題として、図書館から遠い地域に巡回場所を設定し、その場所を知っていただくために周知に力をいれる。学校との連携を密に取り、調べ学習リスト等学習に役に立つ資料を提供できるように、準備をする。移動図書館車を巡回することにより、乳児から大人まで身近な所に本がある環境を提供し、読書推進に繋げていく。				
(3) 令和 3年度の方向性（具体的な取組）	・移動図書館の蔵書の充実を図り（新刊等の貸出）、巡回を行いながら広く市民が「いつでも・どこでも・だれでも」気軽に利用できるサービスを実施し、市民に広く周知する。 ・移動図書館の利便性を生かし、「遠くの図書館に来ることが困難な市民」に対しての図書館サービスを拡大できるように巡回箇所の見直しに取り組む。 ・市民のリクエスト（読みたい本）等の要望に応えることのできるような体制を作り、身近な図書館としての機能を発揮していけるように改善していく。				

**8. 2次評価結果（担当部長評価）**

						評価者	職・氏名	
(1) 今後の事務事業の改革改善の方向性	の 事 業 向 成 果 性 （ ）	拡 充						
		維 持						
		縮 小						
		休廃止（統合含む）						
			皆 減	縮 小	維 持		拡 大	
			コスト投入（予算）の方向性					
(2) 総評								



<b>1. 基本情報</b>						
事務事業番号	02440	事務事業名	図書館読書推進事業	担当部	教育部	
政策名	004	はぐくみ(社会を生き抜く力と生涯を通じて学びあう力を育むまちづくり)			担当課	国分図書館
施策名	002	多様な学びを支援する社会教育の充実			担当課長	北井上 真悟
基本事業名	003	自ら学び、高め合う体制づくりと学習環境の充実			グループ	管理図書グループ
予算科目	会計 一般会計	事業期間	単年度のみ 単年度繰返(開始年度 昭和33年度 ~ ) 期間限定複数年度( ~ )			
目録	10 教育費 06 社会教育費 08 図書館費	根拠法令・条等	図書館法第3条、子どもの読書活動の推進に関する法律等			
評価区分	標準評価	評価対象	1次評価	関連計画	霧島市教育振興基本計画、霧島市子ども読書活動推進計画	

**2. 事務事業の概要・目的・指標<Do>**

(1) 事務事業の概要 (具体的なやり方、手順、詳細を記述)  
 幅広い年齢層の多様な読書行事等への参加を通して、読書への関心、様々な学習への興味を喚起することにより、学習活動の推進を図る。  
 ・おはなし会  
 赤ちゃん・幼児・児童を対象とした、図書館職員やボランティアグループによるおはなし会を毎月開催する。  
 ・おはなし王国等読書イベント  
 各図書館(室)で地域の方を対象に、おはなし会・工作・映画鑑賞会等を開催する。  
 ・夏休み特別講座  
 植物採集教室、昆虫標本教室、からくり絵本教室、植物名付け会、えほんとわらべうた、かがくあそびを開催する。  
 ・その他開催行事等  
 ブックスタート、子ども読書の日、こどもの読書週間、読書週間、緑陰読書、夜のおはなし会 めいぐるみおとまり会、きりしま読書会  
 図書館だより等の作成・配布

活動指標 (事務事業の活動量)	単位	平成30年度 (実績)	平成31年度 (見込)	令和2年度 (実績)	令和3年度 (見込)
ア 行事の開催回数	回	172	180	141	150
イ					
ウ					

(2) 事務事業の目的

対象 (誰、何を対象にしているのか)	対象指標 (左記 対象の大きさを表す指標)	単位	平成30年度 (実績)	平成31年度 (見込)	令和2年度 (実績)	令和3年度 (見込)
ア 市民	人口	人	124,785	126,230	124,623	124,181
イ						
ウ						
意図 (対象をどうしたいのか)	成果指標 (左記 意図の達成度を表す指標)	単位	平成30年度 (実績)	平成31年度 (目標)	令和2年度 (実績)	令和3年度 (目標)
ア 読書に興味を持ってもらう	読書に興味を持った参加者数	人	7,427	7,600	6,140	6,300
イ						
ウ						

(3) 総合計画との関係

**基本事業の目的、取組方針(総合計画より)**  
 多様化・高度化するニーズに対応し、関係機関と連携した学習機会や学習内容の充実に努めるとともに、市民が、必要な情報を容易に入手できるよう、広報誌や図書館システムなどを活用した情報提供を行います。  
 また、社会教育施設の改修やメディアセンター等の機器の更新を通じ、市民が利用しやすい学習環境の整備に努めるとともに、社会教育における学びを通して、地域を知り、課題に気づくことで、その解決に向けた活動に繋がる場や機会の充実に努めます。

**3. 前年度の評価表に記載した課題**

平成31年度の改善改革の内容(取り組むべき課題)  
 ・各図書館(室)が開催している読書イベントについて、誰でも気軽に参加できて、魅力ある内容の充実に努める。また、多くの市民に周知できるように、広報の充実に努める。

<b>4. 事業費の推移</b>		単位	30年度 決算	31年度 当初予算	2年度 当初予算	3年度 計画
事業費 投入量	財源内訳	国庫支出金	千円 0	0	0	0
		県支出金	千円 0	0	0	0
		地方債	千円 0	0	0	0
		その他	千円 0	0	0	0
		一般財源	千円 640	611	576	654
	事業費	千円 640	611	576	654	

**5. 平成31年度の実績及び成果**

(1) 平成31年度の実績(取組) <取組内容を数値等により具体的に記載>	(2) 平成31年度の成果 <左記の実績(取組)による成果を記載>
各種読書推進行事等の開催 ・ブックスタート(11回、1,530人参加) ・おはなし会(113回、2,545人参加) ・夏休み特別講座(7回、157人参加) ・緑陰読書(5回、202人参加) ・おはなし王国等読書イベント(7回、1,896人参加) ・きりしま読書会(2回、12人参加) ・図書館だより等の発行(12回) ・学校図書館、読書ボランティアグループとの連携	・市民を対象とした行事等の開催や、学校図書館・読書ボランティアとの連携による各種事業及び図書館だより等の広報活動を実施することにより、読書に対する興味を醸成及び読書活動の推進が図られた。 ・新規おはなし会として、大人を対象とした読書会「きりしま読書会(国分)」を開催した。また、「夜のおはなし会 めいぐるみおとまり会(国分)」は前年度に行って認知されたこともあり、1回開催の予定だったが回数を2回に増やした。めいぐるみを通して、子どもと本や図書館をつなぐことができた。 ・ブックスタートの活動により、赤ちゃんにとって本が大切であることが認識され浸透し、図書館利用やおはなし会の参加につながっている。

事務事業 番号	02440	事務 事業名	図書館読書推進事業	担当部	教育部
				担当課	国分図書館

**6. 振り返り <SEE (check) >**

A 目的 妥当性	この事業の目的は、基本事業の目的、取組方針に結びついていますか？	・この事業をなぜ市が行わなければならないですか？ ・税金を投入して達成する目的ですか？
	結びついている	市が実施すべき事業又は実施しなければならない事業である
	間接的に結びついている	市が実施することは妥当である
	結びついていない	見直す必要がある
B 有効性	成果が向上する余地（可能性）はありませんか？	廃止・休止の影響はありませんか？
	向上する余地はかなりある	影響がある
	向上する余地はある程度ある	影響はある程度ある
	向上する余地はほとんどない	影響はほとんどない
C 効率性	・事務事業の手段（やり方）を工夫することで、事業費を削減できませんか？ ・補助金など、交付先に働きかけて、市の負担を削減できませんか？	・事務事業の手段（やり方）を工夫することで、人件費（延べ業務時間）を削減できませんか？ ・職員以外の対応や委託により人件費を削減できませんか？
	削減できない	削減できない
	削減する余地はある程度ある	削減する余地はある程度ある
	削減できる	削減できる
D 公平性	事務事業の内容が一部の受益者に偏っていませんか？ また、受益者負担の公平性が確保されていますか？	
	公平・公正である	
	見直す必要がある	

<b>総合評価判定基準</b>	<b>総合評価</b>	<b>理由</b>
A:継続して取り組むことが適当（やり方改善含む。） B:事業規模・内容・実施主体の見直しの検討 C:事業の統合、休・廃止の検討	<b>A</b>	図書館法及び子どもの読書活動の推進に関する法律に基づき、読書推進を自治体が行うことが求められているため、市が本事業を行うことは妥当であり、目的に結びついている。そのためには、図書館（室）とボランティアグループ等が連携をとり、幅広い年齢の方が参加できる読書行事を開催することで、市民に図書館が身近な施設と感じてもらい、その結果、現状値の向上が期待できる。

**7. 1次評価結果 <PLAN (Action - Plan) > (組織決定)**

		【参考】前年度の改革改善の方向性 << 継続・やり方改善 >>				
(1) 今後の事務事業の改革改善の方向性	の事業 方向性 (成果)	拡充				
		維持			レ	
		縮小				
		休業止（統合含む）				
			皆減	縮小	維持	拡大
		コスト投入（予算）の方向性				
(2) 令和2年度の改革改善の内容 (取り組むべき課題)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎年開催される読書行事の内容の見直しを行い、多様な読書行事に多くの市民の方に参加していただくため、開催回数が減少しないように努め、読書推進を図る。</li> <li>・読書行事の参加を促すために、より多くの市民に広報できるように工夫し、周知を徹底する。</li> </ul>					
(3) 令和3年度の方向性 (具体的な取組)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新しい生活様式に準じた読書行事の内容を見直し、幅広い年齢の方に参加していただけるよう実施方法の工夫や改善を行い、魅力ある行事内容の充実に努める。</li> </ul>					

**8. 2次評価結果 (担当部長評価)**

		評価者				職・氏名	
(1) 今後の事務事業の改革改善の方向性	の事業 方向性 (成果)	拡充					
		維持					
		縮小					
		休業止（統合含む）					
			皆減	縮小	維持	拡大	
		コスト投入（予算）の方向性					
(2) 総評							

